

Essay

Sapiarc.com

2012年10月30日(2012-12)

アメリカの大統領選挙

今年のアメリカ大統領選挙が1週間後に迫ってきた。4年前のオバマ氏対マケイン氏のような熱気はないが、票の争奪は逆に激しくなっているようだ。いろいろな調査結果では、オバマ氏優位は動いていないようだが、票数の調査では、ロムニー氏がオバマ氏を僅かに上回ったという結果も出ている。アメリカの大統領選挙は、単なる投票者の多数決で決まるのではなく、各州で大統領選挙の選挙人を選び、その選挙人が大統領を選ぶという2段階方式だ。だから、投票者数では上回っても、大統領選挙では負けることが起こる。実際に、2回前のブッシュ氏対ゴア氏のとかがそうで、ごたごたしたが、結果的には票数では上回ったゴア氏が破れてしまったのだ。不合理なやり方だと思うが、これを変えることは難しいのだろう。また、変えるべきだという運動も起こらない。そういう意味では、アメリカはわからないところのある国だ。

今回の選挙の争点は、結局増税をどのような方式とするか、歳出削減の重点をどこにおくかに尽きると言ってよい。これは、日本の新聞にも書いてあることだが、それよりも少し前に、ニューヨーク・タイムズやワシントン・ポストが書いているので、日本の新聞はそれを翻訳しただけだ。こういうことはよく起こっている。

アメリカの新聞の特徴は、大統領選挙の1週間前ぐらいまでに、支持する候補をはっきりさせることだ。今回は、ニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポストなど知識層を读者としている有力紙はほとんどオバマ氏支持に回っている

ようだ。その点では、全有権者がほぼ半々に分かれていることと大きく違っていることになる。私が読んだ限りでは、ニューヨーク・タイムズとワシントン・ポストがオバマ氏を支持する理由はほとんど同じだ。

日本と同じで、政府の国債が膨らんでいるアメリカでは、もう国債を増やすことはできない状況にある。これは法律で国債の上限を決めているからだ。その法律を変えれば、国債を増やすことは可能だが、法律を変えることは難しい。何故なら、これも日本と同じで、上院、下院でねじれ現象が起きていて、共和党は反対しているので、国債の上限を変える改正はできないのだ。だから、増税するしかない。オバマ氏は、ブッシュ前大統領が始めた減税を止めることと高所得者への増税を主張している。逆に、ロムニー氏は減税を止めることに消極的なうえ、高所得者への増税には大反対だ。ロムニー氏自身が大金持ちだということもある。

両者とも積極的な歳出削減を主張している。しかし、何を削減するかが違う。オバマ氏が既に国防費の大幅な削減を始めているのに対して、ロムニー氏は国防費の削減には反対で、オバマ氏が始めた医療制度（オバマケア）を変えることで、歳出を減らすことを主張している。

このように、両者の重要な主張の違いははっきりしている。アメリカで高所得者とされる人たちが全納税者のどれぐらいの割合になのか、私は知らないが、常識的に言って、20%を超えることはないだろう。だから、普通に考えれば、

オバマ支持の方がずっと多くなりそうなものだが、そうはなっていない。これもアメリカという国のわからないところのひとつだ。私の解釈は、現在低所得者である人もいずれは高所得者になれるかもしれないと思っているので、高所得者への増税に反対するのではないかということだ。つまり、アメリカン・ドリームを信じているか、または信じたいという心情が今でも強いのだ。

誰がアメリカの大統領になるかは、世界に影響を及ぼす。その意味で、私は自分が今回の大統領選挙で選挙権を持っていないことが残念でならない。同じ考えをもっている日本人は他にも相当数いるはずだ。また、少なくとも他の先進諸国にもいるはずだ。私は、アメリカの社会保険番号 (US Security Number) を今でも持っており、アメリカの所得税を1年間だけだが支払ったことがある。

今の日本にとって、オバマ氏があと4年間大統領を継続することが絶対に必要だと思う。オバマ氏はイラクやアフガニスタンの泥沼から抜け出して、太平洋地域をアメリカのグローバル・ポリシーの中心に据えようとしている。このような大統領に率いられるアメリカこそ、日本にとって最も重要な国であることは間違いない。

また、北米でのシェールオイル、シェールガス採掘量の急速な増大によって、これからのアメリカは中東の石油を必要としない可能性がある。少なくとも依存度は減る。これは世界の貿易構造だけでなく、産業構造にも大きな変化をもたらすことは必至だ。それに伴って、世界情勢に大きな変化が起きるだろう。まだ若くて、この変化に柔軟に対応すると期待できるオバマ氏こそアメリカの大統領にふさわしいと思う。

(おわり)